

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 商工課

会議の名称	茅野市中小企業振興審議会		
開催日時	平成30年11月7日(水) 13時00分～16時45分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者	<p>【委員】細田委員、松山委員、小笠原委員、長田委員、寺澤委員、清水委員、田中委員、金子委員</p> <p>【事務局】柳平市長、五味産業経済部長、上田商工課長、小平工業・産業振興係長、河西産業振興担当、北原工業・産業振興係主査</p> <p style="text-align: right;">合計14名(委員8名、事務局6名)</p>		
欠席者	3名		
公開・非公開の別	公開・ <u>非公開</u>	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
商工課長	<p>次第1 開会 開会のあいさつ</p> <p>審議会の成立について申し上げます。茅野市中小企業振興条例第11条第5項の規定で、審議会の開会は委員の過半数の出席が必要とされています。委員数11名のうち、本日まで出席をいただいております委員さんは8名で、過半数を超えていますので、本日の審議会が成立したことをお伝えさせていただきます。</p> <p>それでは次第に沿って進めさせていただきます。</p>		
商工課長	<p>次第2 委嘱書交付 始めに委嘱書の交付を行います。市長からの委嘱状の交付をいたしますので、自席にてお受けください。</p> <p>(柳平市長から、委員8名に委嘱書を交付)</p>		
商工課長	<p>次第3 市長あいさつ 次に市長からごあいさつ申し上げます。</p>		
市長	<p>ここ数日、暖かな日が続いておりますが、この1週間で落葉松の紅葉が一気に進みまして、秋の深まりを感じるこの頃でございます。本日はお忙しい中、中小企業振興審議会にご出席いただきましてありがとうございます。この審議会は中小企業振興条例に基づきまして設置されました諮問機関でございます。市内の工場立地促進や商工・観光業者育成のため事業者の環境整備に対する補助金の審査とともに、中小企業振興に対して様々なご意見をいただきます。茅野市の産業振興のためにお力添えをいただきたいと思っております。今年茅野市は市制施行60周年を迎えました。多くの皆さん</p>		

商工課長	<p>のたゆまぬ努力により今があると、改めて感じているところでございまして、その骨格を担うのはそれぞれの産業であろうと思います。産業界では非常に人手不足ということで、立地促進とともに人手不足も解消していかなければいけないと思っています。皆さまにはそれぞれのお立場から茅野市の産業振興、活力あるまちづくりのために、お力添えをお願い申し上げます。よろしく願いいたします。</p> <p>なお、市長は次の公務のため、ここで退席をさせていただきます。</p> <p>(市長、公務のため退席)</p>
商工課長	<p>次第4 自己紹介</p> <p>次に、委員さんのご紹介を行いたいと思います。誠に恐縮ですが自己紹介にてお願い申し上げます。名簿順に細田委員さんからお願いいたします。</p> <p>(委員の自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>なお、本日3名の委員さんが欠席されておりますので、お名前のみご紹介させていただきます。茅野商工会議所観光委員会委員長 田村一司様、信州大学特任教授 桃崎英司様、茅野市商業連合会会長 伊藤達成様、以上3名の方ご欠席ですのでよろしくお願いいたします。</p>
商工課長	<p>次第5 会長、副会長選任について</p> <p>選出につきましては、条例に規定がございまして、委員様の互選によって選出となっております。ここで互選をお願いいたします。</p> <p>特段なければ、事務局案としてご示しさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>では、事務局案を申し上げます。</p>
事務局	<p>慣例により、本審議会では、会長に茅野商工会議所副会頭を、副会長につきましては、市議会議員の方をお願いしているところでございます。つきましては 事務局案として、本日ご出席いただいております細田委員さんを会長に、松山委員さんを副会長にお願いいたしたいと考えております。ご提案させていただきますので、よろしくお願い致します。</p>
商工課長	<p>ただいま、事務局案をご提示させていただきました。よろしいでしょうか。</p> <p>〈拍手〉</p>

商工課長	<p>それでは、細田会長、松山副会長から一言ごあいさつを頂戴したいと思います。</p>
会長	<p>会長という重い役を賜りました。茅野市の工業発展を少しでも補助できればと思います。よろしくお願いいたします。</p>
副会長	<p>審議会で挙がりました案につきましては、最終的には議会で決算審査をするときにはまた自分でやらなくてはいけないということもありますが、皆さまのお知恵を借りながら進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
商工課長	<p>それでは正副会長さんは前の席へご移動をお願いします。</p> <p>ありがとうございました。それでは次第6の会議事項につきましては、細田会長さんに進行をお願いしたいと思います。</p> <p>次第6 会議事項</p> <p>次第6－(1) 審議会の公開について (資料1)</p>
会長	<p>まず、(1)の審議会の公開・非公開の決定について審議をいただきます。</p>
事務局	<p>(資料1に基づき説明)</p>
会長	<p>事務局より説明がありました。審議内容を考慮し審議会を公開にするか非公開にするか審議をお願いします。</p>
委員	<p>各工場の機械や設備等、機密なものがございますから、非公開ということでやっていただければと思います。</p>
会長	<p>その他にご意見等はございますか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>無いようですので本審議会は非公開とさせていただきます。</p> <p>次第6－(2) 中小企業振興補助金の交付について</p> <p>次第6－(3) 報告事項</p> <p>(以上の内容については、非公開とさせていただきます。)</p> <p>次第6－(4) 中小企業振興について (意見交換)</p>
事務局	<p>お手元に資料4がございます。今回ご用意したものは、中小企業振興に</p>

ついて意見交換をさせていただく上での話のきっかけになればと思います。市長のあいさつでもありましたが、人手不足が非常に深刻な事態になっております。私ども10月に緊急アンケートを市内の製造業の事業者さんへ取らせていただきました。約30社の方からご回答がありました。そのうちの約8割が、労働力が不足しているのご回答があり、約3割の会社さんはそれが深刻であるというご意見でございました。これは他の統計でもありますが、全国的に人手不足がある中で長野県の企業はそれの上をいく人手不足というデータもございます。従って市としましては、何らかの策を打たなければこの状況がよりひどくなるのではと危惧しているところでございます。

働く人が選ぶ売り手市場の状態であることを踏まえまして、どう対応していくか。資料4にありますように、大きくは両輪支援ということで2つの対応が必要かと考えております。

まずは右側ですが、「中長期的に人手に頼らない経営強化・改善」ということで、今年度から先ほども触れましたが福利厚生施設を充実するための支援、あるいは人手不足を見込んだ自動化・省力化の設備投資、人に選ばれる現場改善ということで支援策を充実させていただいております。

具体的には中小企業振興補助金と、新たに今年度からの製造業労務環境改善等設備投資促進補助金という製造現場で働く方が感じている負担を減らすために設備投資される場合、普通の設備投資より補助率を上乘せして補助金をお出ししたり、市内の事業所さんから設備を購入される場合は、10万円限度額を上げるということで、市内の事業所さんが自発的に働きやすい職場改善をしていただくことに支援していくように補助金を組んでおります。当初500万円の予算を組んでおりましたが、現時点での実績で513万円と非常に引き合いがございまして、予算を流用しながら対応しております。

そのほかに、生産性向上特別措置法に基づき、償却資産に係る固定資産税をゼロにする、全国の自治体でも対応しているものがございまして、私どもも積極的に取り組んでいるものです。事業所さんが市の計画に則して設備投資の計画を作ってください、それを市が認定させていただきます。それが基準を満たせば、3年間の固定資産税をゼロにするといった特例措置でございます。6月からこの制度を開始しておりますが、現時点で既に30社、約7.3億円の設備投資について市が認定をしております。

こういった形で設備投資を進めることで、中長期的には人手に頼らないという形でご支援をしておりますが、これをもってしても今の人手不足に対応できないのではという危機感から、(資料4)左側の「当面の人手不足に対する人手確保」ということで新たな事業を検討しております。

ポイント1でございますが、「流動性の高い派遣労働市場から緊急的に人手確保、定着促進」でございます。あくまでも検討案でございますが、外国人労働者については現在臨時国会でも議論はされております。既に市内の中でも外国人労働者活用の促進が進んでおりますが、本腰を入れた対策はこれから法制度が整ってからだと考えております。しかしながら、現時点での人手不足にどう対応していくか、賃金が都心部でも高い状況でありまして、一般の移住促進政策では人を確保するのは難しいのではないかと

<p>会長</p>	<p>ということから、比較的人の動きが流動的な派遣労働市場に注目をし、人のパイを増やしていく取組を私どもでも検討を進めているところでございます。</p> <p>ポイント2としましては、インターンシップでございます。私どもも補助金を設けていますが、利用の促進が進まないところがございます。原因の一端としますと、学校からの依頼に基づいてインターンシップを実施される場合に補助金の対象としていますが、人手不足となると企業さんからの自発的なインターンシップもあり得るかと思ひますし、取組も現に進んでいるかと思ひます。そういったところをより促進する意味合いで、補助金の要件を緩和していくことが1つの案でございます。インターンシップは比較的學生さんと会社さんの1対1の関係ですが、それを広げて市内の事業所さんが複数組んで、企業見学ツアーを組むとか、企業説明会のイベントを組むとか、自発的に事業所さんが連携をしあつて學生に向けて魅力の情報発信をしていくような多対多の取組を促していくことも一案と思ひています。</p> <p>大きくは両輪という形で、緊急的な当面の人手不足を解消していく、長期的にも設備投資を促して対策を打っていくことで、市も検討したいと考えております。これに限らず、ご意見をいただきまして対策を考えていきたいと思ひます。</p> <p>市から取組のご説明をいただきました。労働力不足はここ2・3年後、高校生を見ていまして、諏訪管内で100以上が減ることや、条件が良くなり専門学校や大学になりますと、高校卒業した子の人手不足よりも、現実な問題になるかと思ひます。東京辺りに出て行った子が戻ってくるかという、なかなか戻ってこないというのも現実だと思ひます。いろんな手を考えていただいた中で、茅野に労働力を戻すということを考えていかなければならないと思ひます。</p> <p>その他に何かご意見ございますか。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>ではこれで審議事項を全て終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>商工課長</p>	<p>次第7 その他</p> <p>ありがとうございました。本日もご用意させていただいた内容は以上でございます。その他としても、私どもでは特にご用意しているものはございません。委員の皆さまから何かございましたら、ご意見・ご発言等いただければと思ひます。</p>
<p>副会長</p>	<p>今、労働力不足が相当だと伝わってきますが、それを補うための施策はあるのでしょうか。それが、これから第5次総合計画の茅野市での発展にも繋がってくるかと思ひます。現実はどうだというのがありますが、それ</p>

<p>商工課長</p>	<p>を埋めていくことのやり方が、これから茅野市が第5次総合計画を全うしていく方法かと思います。実際労働力不足は市内でどれぐらいの状況があるのか、データを出してもらえるような方法はないでしょうか。</p> <p>公になっている数字からで言いますと、ハローワークの有効求人倍率は諏訪圏域でいきますと1.7や1.8と非常に高い水準で推移しています。人手は不足しているということは実感として感じています。企業様の方から、実際に求人を出してみても、実際に職を欲しがっている方達の就きたい職と求人とのミスマッチがあるということも把握しています。そういったことから諏訪圏域内の求人情報、何を求めているかということは、公のものはハローワークが提示しているものでお示しすることは可能かと思えます。</p> <p>もう1点お話しさせていただくと、先ほど事務局から説明がありましたが、市内の精密工業連合会にご登録のある中小企業者約70社に対してアンケート調査をさせていただきました。ご回答をいただいたのがその中の34社でありました。その中で今どういった人材が不足しているのか、それに対応する対策はどうされているのかというアンケート調査もごございますので、必要とあらばそれをご報告させていただくことは可能でございます。そういったものをご用意させていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>今申し上げたとおり、何が不足しているかは季節変動を伴うものがありますので、求職でみるとハローワークの情報が一番早いかと思います。年単位で見ますと、国の統計がありますので、それで捉えることはできますが、現状として本当に不足しているかと捉えるのは難しいかと思えます。ただ今後は慢性的な人手不足になるだろうという話もありますので、季節変動というよりは慢性的な捉えた方をした方がよいかと思えますので、人手不足の対策は市としてもより強化して考えることが大事かと思っています。</p> <p>国の外国人労働者の検討によりますと、14種類の職種に限るという話になっています。介護や建設だとか挙がっている業種につきましては人手が来るかもしれませんが、挙がっていないところは人が当たらない可能性があるということで、いろんな分野や季節を含めて横断的にみていかなければいけないと考えています。情報は逐一仕入れていきたいと思っています。</p>
<p>副会長</p>	<p>役に立つ施策かわかりませんが、地域では大手が出てきて人を集めています。地域の中でも流動的に人が動いています。当初はその企業が出てくるときに、方向性としては地域で迷惑をかけてはいけない、地域で人の取り合いをすると当然他が困るわけですし、そのようなことがないような施策でいきたいということで進出してきたわけです。行政として他市から人を導入できるようなお願いの話をやらしてもらえればと。向こうも最初は自分達で何とかしなくてはと思いを持っていましたが、段々定着してくると、取りっこしてとなっています。行政として方向性をうまくやって、結果的には茅野市の人口は維持できるわけです。どこまでできるか、やってもらえるとありがたいです。</p>

商工課長	<p>ありがとうございます。副会長さんからおっしゃっていただいたこと、現実的にもございます。様々な企業の皆様からもそういったご意見をいただいております。行政といたしても、市内に進出してくる企業様に対しては、お越しいただく際には採用された全国各地にある支社からも人を呼び込んでいただくをお願いをするとともに、積極的に新規の高卒・大卒を含めて採用枠を増やしていただきたいとお願いをしているところでございます。当市ですと高校2校、公立諏訪東京理科大学というところの積極的な生徒の採用も含めて、行政として企業をお願いをする、現状そういった取組もさせていただいております。引き続きそのような形で、積極的にお願いをしていきたいと考えております。</p>
副会長	<p>労働力の確保となると、人口が限られているわけですから、どこから取り込めるかという、公立諏訪東京理科大学の生徒が地元の企業に採用されて住み着いてもらうということに力を入れることが、一番の大事な部分ですよね。</p>
商工課長	<p>おっしゃるとおりだと思います。茅野市でも平成27年10月に地域創生総合戦略を策定させていただきました。その中で基本政策とすると5つの目標を掲げて動いているところであります。その2番目に「選ばれるまちをつくる」ということで働く環境の整備も掲げさせていただいております。そういったところにも力を入れながら、より茅野市が選ばれるまちになるための積極的な仕掛けを作っていきたいと思います。外から集まっていた公立諏訪東京理科大学の学生さんが、茅野市に定着していただくという施策も含めまして、積極的に取り組んでいきたいと思います。</p>
委員	<p>求人との関係ですと、労務対策協議会の方でも先ほどのような話がありまして、6市町村で連携を取らせてもらっています。その中で、少しでもこの中に残って、また地元に戻ってこられるような施策をしていかなければいけないのではと、いろんなことを進めています。魅力があれば残ると思いますので、先ほどの補助金もそうですが、帰ってきた方、またこちらに勤めに来た方にそういった補助金を考えていけばよいかなと思います。</p>
委員	<p>本当は我々が地元で学生を輩出していかなければいけないところ、ご迷惑をおかけしています。先ほど話のあったインターンシップや福利厚生ですが、今回たまたま愛知の方で企業さんと就職を介してお会いする機会がありまして、特に文系に関してなんです、福利厚生で会社を選ぶという学生さんも多くいます。文系の方も、扱っている商品はいろいろあったとしても、最終的にやる作業というのは入力などの事務的な手続きになってしまうので、結局仕事の内容ではなく福利厚生とかで精査することが多いと。我々工学部だと、やはり面白いことをやっているか、やってみたいことだとか、魅力がちょっとずれてきます。そういった意味では、企業さんは福利厚生とかにお金は回しにくいところだと思いますので、そこで企業としての魅力がアップされると非常に良いかなと思います。また、インターンシップで学生さんと早い時期から触れ合うことによって、学生がその</p>

	<p>会社のことを知るチャンスが多くなります。今はインターネットで見る習慣がついているので、実際に見ないとイメージがわかりませんよね。愛知の方でもお話ししたのが、1社でインターンシップが難しかったら複数社でやって、たまたま受け口が商工会議所だったので、商工会議所が取りまとめて、例えばインターンシップを5日でやって、1日ごとに割り振れば良いのではないかとアドバイスしたことがあります。企業さん1社では1日割くのも、仕事を多くして人手不足なのに大変だと。なので複数で3・4日はなかなか取れないかと思いましたので、そういったところもこの説明は良いとみておりました。</p> <p>今学生7割が、県外からきております。その7割のうち多くの学生がここに残ってくれるとよいなど。長期目標としましては、5割が地元にと掲げておりますが、なかなか厳しいところがございます。今は売り手市場なものですから、昔と違って学校が推薦するということは少ないです。推薦枠を持っているので、学生が企業に行くことと決まってから学校推薦枠を使ってくださいということでやっている現状です。学生にとって魅力ある企業さんのまちづくり、助成金だけでなく国によっては友達だとかコロニーといった人と触れ合うチャンスの催し、海外からきた学生同士が寄り添って集える会を設けるとか。特に中東系だと、全然知らなくても出身国が同じなら親族みたいなもので。そういったところも枠組みとしてあってもよいのかなと思います。</p>
商工課長	<p>ありがとうございます、参考にさせていただきます。その他ございますか。</p>
委員	<p>インターンシップの関係なんですけど、就職もですが離職率もすごく高いので、インターンシップで前もって企業のことを調べられれば、実際に自分が向いているかもわかると思うので、そうするとミスマッチもなくなると思います。インターンシップに力を入れていくことはとても良いことかと思えます。</p>
商工課長	<p>ありがとうございます。その他、お話しできることございますか。</p> <p>(特に意見なし)</p>
商工課長	<p>次第8 閉会</p> <p>ありがとうございました。本日ご審議をいただきまして誠にありがとうございました。ご審議いただきました結果を受けまして、交付決定をいたしまして速やかに補助金の支払い手続きを進めてまいりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、平成30年度 茅野市中小企業振興審議会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>